

第54回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

さまざまな愛の形

青森県 八戸市立大館中学校 二学年

水石 萌菜

先日、我が家にお客さんが来ました。それは保険会社の人でした。普段はセールスを嫌う母が、めずらしいなあと思っていました。

お客さんが帰った後、母が

「あと六年後にはお父さんも退職するし、保険のこともいろいろ整理しようと思ってる。」

と言いました。私は、正直言っただけで「生命保険」という言葉に抵抗がありません。人の命はお金にかえることなどできない尊いものです。ましてや、命を失ったら手に入るお金のことなんて考えたくもないと思いました。何よりも大事な父や母が死ぬことを前提に話すなんて縁起が悪いと思いました。でも母は言いませんでした。

「お父さんもお母さんも、大好きな家族をいつでも守りたいんだよ。もちろん、生きている今は、全力で愛し、守る。でも万が一、死んでからだって守りたいんだよ。ずっとずっと愛し続けたいんだよ。」

それから母と、初めて保険について話しました。保険にはいろいろな種類があること。私たち子供は生まれた時から「学資準備のための保険」に入っていて、大学卒業まで見守ってもらえるようになっていくこと。今まで全く知らなかったことがたくさんありました。

「二番目のあなたの時は、生まれる前からお父さんが学資準備のための保険に入れるって言い出して。早すぎるって言っても、自分がしてあげられることを全部やりたいんだって言い張って……。」

と母は笑っていました。単身赴任ばかりでありそういう面を見せたことがない父の意外な一面を知ってびっくりしました。でも、内に秘めた愛情を感じ、心が熱くなりました。いろいろな愛情の表現の仕方があるんだと感じました。

保険とは「死」の代償であるという考え方が、百八十度変わりました。それとは全く逆で、家族への最大限の愛の形だったのです。

父と母は、何があっても、子供たちが自分の力で生きていけるようになるまで守る責任がある、と言いました。その責任は、たとえ自分たちがいなくなってしまうでも果たすべき責任だと言いました。私はそういう両親を格好いいと思います。そして、お父さんお母さんの子供に生まれて本当によかった、本当に幸せ者だと思います。

第54回中学生作文コンクール

私はこれからも、父と母の絶対的な愛情を信じ、そして守られて生きていきます。私たち家族は、強い絆で結ばれていることをあらためて感じています。この感謝の気持ちを忘れずに、毎日をたくましく生きていこうと思います。